

Academic Conference of Korean Society of Community Nutrition in 2017 (大韓地域社会栄養学会学術大会) に参加して — 第 8 回日韓シンポジウム報告 —

横山 友里*¹, 高田 和子*²

*¹東京都健康長寿医療センター研究所 *²医薬基盤・健康・栄養研究所

キーワード: 大韓地域社会栄養学会, 学術大会, 日韓シンポジウム, 学会報告

2017年10月27日(金)延世大学にて, Academic conference of korean society of community nutrition in 2017 (大韓地域社会栄養学会学術大会) が開催された。社団法人大韓地域社会栄養学会¹⁾と本学会は, 2010年の本学会学術総会時(埼玉県)に第1回日韓シンポジウムを開催以降, 毎年双方の学術大会にて, 日本と韓国を交互に会場としてシンポジウムを開催している²⁾。今年韓国での開催の年にあたり, 本学術大会のセッションのひとつとして, 第8回日韓シンポジウムが開催された。開催テーマは, これまで子供から高齢者まで各ライフステージにおける栄養学の研究や実践, 政策に関する多様なテーマが取り上げられているが, 今年のテーマは「Dietary Management of the Elderly (高齢者の食事管理)」であった(表1)。

表1 これまでの日韓シンポジウムの開催テーマ

開催年	テーマ
第1回 (2010年)	「子どもの心身の成長に果たす学校給食の役割と課題」
第2回 (2011年)	「減塩に関する研究と国民教育」
第3回 (2012年)	「Strategies and Evaluations of Prevention and Control of Metabolic Syndrome (メタボリックシンドロームの予防と管理における対策と評価)」
第4回 (2013年)	「高齢者保険での栄養サービス」
第5回 (2014年)	「地域包括ケアシステムにおける在宅栄養ケア活動の連携と調整と大韓民国における地域栄養活動のシステムと実践活動」
第6回 (2015年)	「Social services and nutrition programs (ソーシャルサービスと栄養プログラム)」
第7回 (2016年)	「Nutritional status of children and the school nutrition program in Asia (アジアにおける子供の栄養状態と学校栄養プログラム)」
第8回 (2017年)	「Dietary Management of the Elderly (高齢者の食事管理)」

今年の本学術大会のメインテーマは「Strategies to change dietary behavior using gastronomic science (美食科学を活用した食行動変容のための方策)」であり, 我々が参加した日韓シンポジウム以外では, 「Gastronomic Science and Food Choice (美食学と食品選択)」, 「Development and Utilization of National Standard Food Ingredient Database (国際標準食品成分データベースの開発と活用)」, 「Development of Work Capacity for Center for Children's Food service Management (子供のフードサービスマネジメントセンターのための業務能力の開発)」をテーマとしたセッションや, 受賞式, ポスター発表などが行われた。学術大会の参加者数は約350名とのことであった(写真1は学会関係者との記念写真)。

日韓シンポジウムでは, Haeryun Park 理事長と本学会武見ゆかり理事長からの開会の挨拶の後, 4人の研究者から研究発表があった。まず, 日本からの発表として, 著者二人が講演した。横山が「Dietary management of the elderly in Japan (日本における高齢者の食事管理)」について発表し, 地域高齢者の栄養疫学研究の結果から高齢期の食事管理における食品摂取の多様性の重要性を示した(写真2)。高田は, 「Community health care program for the elderly in Japan (日本における高齢者のためのコミュニティヘルスケアプログラム)」について発



写真1 第8回日韓シンポジウム記念撮影



写真2 講演の様子



写真3 昼食のメニュー

表し、介護保険制度や地域包括ケアシステムの仕組みをはじめ、施設・在宅における高齢者の栄養状態の特性や栄養管理、昨年厚生労働省から公表された「地域高齢者等の健康支援を推進する配食事業の栄養管理の在り方検討会」報告書についても紹介した。一方、韓国からは、Kyungwon Oh氏（Center for Disease Control & Prevention）から、「Disease and diet management plan of the elderly in Korea（韓国における高齢者の疾患と食事のマネジメント計画）」について、Eunmi Hwang氏（Welfare Union）から、「Dietary and nutritional management status of the elderly in Korea（韓国における高齢者の食事と栄養管理状況）」についての発表があった。韓国の国民健康・栄養調査などの結果に基づく韓国人高齢者の健康・栄養状態の現状や課題、地域高齢者にむけた食環境整備に関する取り組みについて紹介された。日本からの発表は英語で行い、韓国からの発表は韓国語で行われた（内容理解のため、韓国語（ハングル）から日本語に翻訳した配布資料をいただいた）。質疑応答は、日本語・韓国語がわかるスタッフにより、通訳が行われた。質疑応答および議論の時間は比較的短い時間ではあったが、日本の栄養施策の取り組みの評価などの質問があたり、高齢化の先進国である日本の取り組みへの関心の高さが伺えた。

学会以外の話題としては、筆者（横山）にとって初めての韓国訪問であったが、韓国の食事については大変興味深かった。日韓シンポジウムが始まる前の昼食では、ソウル大学名誉教授・牟寿美先生、学会関係者とともに延世大学のレストランにて会食をし、韓国料理をいただいた（写真3）。主食、主菜、副菜、汁物を中心とした日本食にも近い構成であるが、味つけは日本の外食に比べ薄く、非常においしかった。日韓シンポジウムの韓国側



写真4 学会参加者に配られたお弁当

の発表にもあったが、韓国は減塩対策を積極的に進めており、ナトリウム2g以下の摂取者の割合は増加しているという。減塩対策の効果を実感した食事（味つけ）であった。なお、写真4は、学会参加者に配られたお弁当の写真である。展示されていた教材でも、飯、汁物、主菜、副菜をそろえることをすすめており、近い国であることを実感させられた。

第9回日韓シンポジウムは、来年9月に行われる本学会の第65回学術総会（新潟）で開催予定である。本シンポジウムは、日韓の交流・連携を図る貴重な機会であるとともに、アジア地域をリードして栄養学の知見を深め、世界に発信していくという観点からも、重要な役割をもっている。ぜひ多くの方にご参加いただき、活発な議論が行われることを期待している。

文 献

- 1) The Korean Society of Community Nutrition, <http://en.koscom.or.kr/> (2017年11月27日)
- 2) 赤松利恵, 吉池信男: 大韓地域社会栄養学会第20回学術大会に参加して—第6回日韓シンポジウム報告—, 栄養学雑誌, 74(1), vi-vii (2016)